

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790500054		
法人名	社会福祉法人善隣福祉会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所 愛誠園		
所在地	沖縄県宜野湾市伊佐2丁目1番6号グランドステージMG地下1階		
自己評価作成日	平成28年11月25日	評価結果市町村受理日	平成29年 2月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhou_detail_2016_022_kani=true&JizyosyoCd=4790500054-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205		
訪問調査日	平成28年 12月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

朝のレク体操の時間に早口言葉を取り入れ、利用者も喜んでい

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体の介護老人福祉施設は開設36年余を経過し、法人は地域の高齢者福祉の基幹となっており、諸在宅介護サービスも展開している。本事業所は母体施設から離れた国道沿いのビルの地下に位置し、開設9年に至っている。利用者の重度化に伴い、移乗等の日常的な支援は職員二人体制で行われている中、病院からの重度の退院者の受け入れも行っている。食事は3食事業所内で職員が調理し、利用者の嗜好を反映した献立としており、利用者からの満足度も高い。家族へ毎月の利用請求書と一緒に、行事等の写真による「ホーム便り」と「利用者の生活状況」を担当職員が文書にして情報を提供している。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人が尋ねてきている。	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

確定日：平成29年 1月30日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関・職員トイレに掲示して理念を意識するようにしている。	理念は、職員がいつでも意識して確認できるよう、事業所内に掲示し共有している。日課では常に利用者の側で寄り添うようにし、利用者の行動はなるべく制限しない支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のミニディに参加したり、消防訓練へ参加の声掛けをしている。	本事業所は国道に面したビルの地下に位置しているため、地域住民が日常的に訪問する機会は殆どない。管理者は包括支援センター主催の地域住民対象の認知症の学習会に参加し、事業所の紹介等を行っている。地域とのつきあい方について苦慮している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の認知症の研修等に参加して、地域の皆さんと交流している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況報告を行い、意見提案があれば、ミーティングで話し合い、サービスの向上に努めている。	会議は利用者・家族・市担当者等が出席し、年6回定期的に開催している。家族から災害時の対応の質問や自治会長から地域行事の誘い、利用者から食事が美味しい等の感想もある。事故報告等も行い、透明性は図られている。委員等への議事録の提供が期待される。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	宜野湾市のグループホーム連絡会に参加して、推進会議に参加してもらい問題点等のアドバイスをもらっている。	市担当者とは、運営推進会議と年2回の市グループホーム連絡会の場で連携している。支援困難事例等が生じた場合は、包括支援センターとの連携・協力関係を築くよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、安全面を考え安全ベルトや四点柵を使用している。	身体拘束をしない方針を掲げているが、転倒防止のためやむを得ず、3名の利用者に車椅子のベルトやベッド4点柵を行っている。一連の手続きは実施されている。玄関の自動ドアは職員が管理している。ケアの共有化に向けた職員研修等の確認はできなかった。	身体拘束は一時的なものであるもので、身体拘束廃止に向けての検討及び虐待防止に関する職員研修を積極的に実施することが望まれる。

沖縄県（認知症対応型共同生活介護事業所 愛誠園）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃より、心身の状態を観察し、本人や職員間で情報収集し虐待がない様に注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会は少ないが、権利擁護に関する資料等目が届くところにおき目を通すようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分理解できるように説明していますが、もう一度読んでみたいとの希望者には持ち帰って家族で相談して不安や疑問があれば納得してもらえるように説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、家族の面会時等に意見と要望を聞き取りしていますが、ミーティングで話し合いをして改善に向けて努めます。	利用者からは日頃の支援の中で意見等を聞いている。家族からは面会時等、いつでも気軽に意見を聞く機会としているが、「お世話になっているので、お任せする」との意向が強く、運営に反映する意見等はない。利用者状況を毎月請求書と一緒に文書で報告している。	家族が意見や要望等を表せる機会の検討、及び実施するとともに運営に反映させることが望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングで職員の意見、提案を出し合い話し合いにて叶えられるよう努め業務中での気付いた点や業務の分担等も話し合いをしている。	職員の意見で、利用者の皮膚剥離防止や職員の腰痛防止等のため、ベッドや椅子等への移乗介助時は二人体制を実施し、介護方法の改善に繋がっている。重度者の食事作りとして、ハンドブレイヤー（流動食用調理器具）を購入したことで、調理時間が短縮される等、運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が資格を取った歳や就業年数により正社員への登用等向上心を持って働きやすい環境になってます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内外の研修に参加できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宜野湾市のグループホーム連絡会に参加し、情報交換をしている。宜野湾市の他のグループホームの推進会議に参加して運営面やサービス等の情報交換を行い質の向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活歴、生活状況入居者の思いを事前に面接して聞き取りし、利用者との信頼関係を築くようにする。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	生活歴、生活状況入居者の思い家族の希望を事前に面接して聞き取りし、今後のケアを相談して気になる点は連絡を密にして信頼関係を築いていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを作成して、面談・連絡を密にして利用者の必要とするサービスを見極め、他のサービス利用も検討する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の状況に応じてその日に出ることを声掛けして一緒に行い、雑談の中から本人の希望を聞きだし、叶える事で信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会された時に日々の暮らしや問題点等を伝えたり、ホームでの活動状況報告書やホーム便りを郵送し、情報を共有している。オムツやティッシュを家族に買い物してもらい、面会の機会を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域のミニディサービスに参加して、交流が出来るようにしている。	馴染みの人や場との関係継続の支援については、通院時の帰りに、自宅周辺を通り周囲の様子を見る機会としている。これまでの生活の継続として、裁縫を職業としていた利用者には、衣類修繕等を支援内容に取り入れている。生活歴等は、家族や民生委員から情報で得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	職員が間に入って声掛けしたり、共通の話題 をして話ができるようにしている。席も話 ができるような人を考えて配置している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も連絡があり、相談に乗る事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	日常の関わりの中で入居者の言葉や表情 の変化、職員全員で申し送りをして情報を 共有し、希望に添うようにしている。意思表 示の困難な方は表情を観察し、声掛けをし ながらケアに取り組んでいる。	思いや意向の把握は、食事時のリラックスし た場面や居室での介助時等に、意向等を把 握する機会としている。意思表示が困難と思 われる場合は、介助等での言葉かけ時の表 情や変化等を観察し把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	入居前の情報を把握し、本人家族との雑談 より、それ以外の詳しい情報を収集してい る。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	利用者の健康状態・精神状態を申し送りし、 定期的にミーティングを行い現状の把握に 努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	本人・家族のニーズを聞き、職員と話し合 いをしてそれぞれの意見を反映して、介護計 画を作成しています。	会議に利用者・家族が参加し、「友達に会いた い」等、個別の意向を反映した介護計画を 作成している。3か月毎のモニタリングによ り、随時の変更も実施している。定期見直 しは介護認定更新時に行っているが、利用 者の重度化により個別支援の困難さが課 題となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有し ながら実践や介護計画の見直しに活かしてい る	日々の様子は個別で記録してます。変化の あった場合は申し送り簿に記録して職員 で情報共有し、ミーティングをして介護計 画の見直しに生かしています。		

沖縄県（ 認知症対応型共同生活介護事業所 愛誠園 ）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診や買い物は家族対応ですが、利用者や家族の状況に応じて、職員が行ってま す。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	母体のデイ・行事への参加、小規模との合同の行事(保育園児との交流)、ミニデイへの参加を行い地域の皆さんと交流を図り楽しく生活ができるようにしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人家族の希望を大切にし、かかりつけ医に本人の心身の状況生活の状況を提供して適切な医療を受けられるようにしています。	開始時のかかりつけ医の継続者もいるが、6名が協力医に変更している。家族が受診対応をしているが、4名は職員が受診支援を行っている。全員が週1回の訪問看護を利用し、訪問歯科も3名が利用している。受診時の情報提供は書面や口頭で行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	電話連絡や週1回訪問看護師にきてもらい、利用者の状況を伝え相談してアドバイスをもらっている、状態悪化を防ぐようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院時のカンファの参加、主治医への面談を行い、情報交換をして退院後のケアに生かしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族や本人と重度化や終末期のあり方について話し合いを行い、事業所でできること等を説明して方針を共有している。	家族には利用開始時に、事業所の方針として常時医療的支援が必要になった場合は、病院や特養を紹介することを説明し、理解を求めている。家族から、重度化しても事業所で過ごさせたいとの希望があり、看護師と連携を図り、訪問診療の取り組みも検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備え、法人全体での救命救急の講習会を行い、実践力を見に付けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を行い、地域の方にも参加してもらってます。	昼夜を想定した総合訓練と避難訓練を年2回実施している。訓練時には近隣の会社員や近くに住む理事長・職員の協力を得ている。食糧等は3日分備蓄し、電池や寝具等も保管している。マンションの地下1階という立地上、災害時の避難方法が課題となっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に人格を尊重して、プライドを傷つけないように意識しながら個々にあった声掛けをしています。	利用者の表情を見ながら声かけを多くし、個々のやりたいこと等を把握するようにしている。日々の暮らしで利用者へ感謝の思いや言葉を伝えるようにしている。利用者の特技を活かして繕い物を支援したり、朝や風呂上がりに化粧をする等、人格を尊重した支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いが言葉に出せるよう問いかけ等に工夫しながら希望を選択出きるように声掛けしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースは把握し、希望に沿って支援に取り組んでいます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人で決めおしゃれを楽しむ方と職員と一緒に決める方個々にあった身だしなみおしゃれができるように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のできる事(食器拭きや野菜の下ごしらえ等)をお手伝いしてもらいながら、食べたい物の希望も取り入れています。	食事は3食職員が調理し、利用者は経節のバック入れや味見、配膳等に参加している。エプロンやお箸を配る役割を率先して行う利用者もいる。職員は、食事介助後に同じものを摂っている。利用者に合わせて低いテーブルで食事ができる配慮がされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量はチェックして記録し、咀嚼嚥下状態に合わせて個別に準備して美味しく食べれるよう支援しています。		

沖縄県（認知症対応型共同生活介護事業所 愛誠園）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っています。義歯の方は定期的に洗浄剤を使い清潔保持努めています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の訴えだけでなく、利用者の様子観察仕草排泄パターンを確認し、個別にあった自立に向けた支援を行っています。	排泄チェック表や職員同士の情報共有で、排泄パターンを把握し、声かけをしたり、励ましながらトイレ排泄を支援している。同性介助を基本としている。日中は手引き歩行等で生活リハビリを兼ね、座位や立位を維持することで、排泄の自立に向けた支援を行なっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状態を記録し、水分補給食事面の配慮水分の摂取量を把握して便秘にならないように支援しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には曜日時間は決まっていますが、利用者に合わせて希望を聞きながら支援しています。	入浴は週3回、午前中に支援している。スムーズな入浴のため、利用者の状況をみながら職員が声かけし、本人の希望に対応するようにしている。体調不良等の場合は、清拭に替えて対応している。着脱衣の際は、タオルを掛ける等して羞恥心に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	好きな時間に自由に休んでいただき、体調を崩さないように配慮しています。自分で意思表示が出来ない方は職員で話し合い状況を見て休ませています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の薬箱に処方箋を貼り、薬の確認が出来るようにしています。薬の変更や症状変化があった時は申し送りを行い、本人の状態確認をする様にしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の力量合わせた活動（食器拭き洗濯畳み・漢字あわせ等）を個別に合わせたペースで行っています。天気の良い日はドライブで出かけたり、好きなコーヒーを飲んでいただいたり楽しんでいただけるようにしています。		

沖縄県(認知症対応型共同生活介護事業所 愛誠園)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ひとりひとりの希望に添うことは困難ですが、天気の良い日はドライブや他グループホームに出かけて交流したりしてます。家族が受診に連れていけない時は本人の状況を見ながら受診介助してます。	利用者の体調に配慮しながら可能な利用者には、散歩やベランダでの外気浴等を行っているが、機会が少ない状況である。帰宅願望がある場合は、自宅周辺までドライブをしている。毎年、母の日に全員で夕食をしている。	外気浴等、1人ひとりに合った日常的な外出支援の工夫が望まれる。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物等は家族が支援してますが、家族が対応できない時は職員で本人の希望を聞いて買い物してます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望で家族に連絡をとるように支援してます。自分で携帯を持ち、連絡を自由に行ってます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓をして利用者が落ち着ける空間を作るようにしてます。掲示物を変えて、季節の変化を取り入れ、活気が出るように支援してます。	食堂兼リビングは、対面キッチン側から利用者の様子がうかがえ、調理の匂いが居室まで届く造りとなっている。テレビの音量は控えめにし、時々食卓の席替えをしている。3か所のトイレは、ウォッシュレットを設置している。壁には、夕食や敬老会等の行事の写真が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールで新聞を読んだり、一緒にテレビを見たりして落ち着いて過ごせるようにしてます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には家で使っていた馴染みの物や好みの物を持ってきてもらうよう、家族にお願いしてます。写真等を掲示して居室になれて落ち着くようにしてます。	各居室にはベッド、天井まで届く造り付けのクローゼットが設置されており、十分な収納ができる部屋である。利用者は馴染みの枕や毛布、テレビ、ソファ、家族写真、裁縫道具等を持ち込んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全確保ができるようにトイレや廊下に手摺を設置してます。一目でトイレや浴室居室がわかるように名前等掲示してます。		

(別紙4(2))

事業所名 : 認知症対応型共同生活介護事業所愛誠園

作成日 : 平成 29 年 2 月 6 日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	虐待・拘束についての研修を行ってないため、理解不足が見られる。	◎虐待の研修を行う ◎身体拘束の研修を行う。	◎虐待の研修は2月2日に法人で行ってます。 ◎身体拘束・虐待については4月のミーティングで話し合いをする。	6ヶ月
2	2	地域との関わりが少ない。外出や交流の機会が少ない為、活気がない。	◎包括との連携をとる。 ◎地域の保育所と交流する。 ◎ミニディへの参加	◎退所が見込まれる利用者についてぎのわん包括に報告済み ◎保育所と連携をとり、交流をする。(保育所と相談中) ◎ミニディへの参加する。	6ヶ月
3	3				ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。